

# 保険診療における漢方薬の貢献

一般社団法人日本東洋医学会

令和7年3月30日

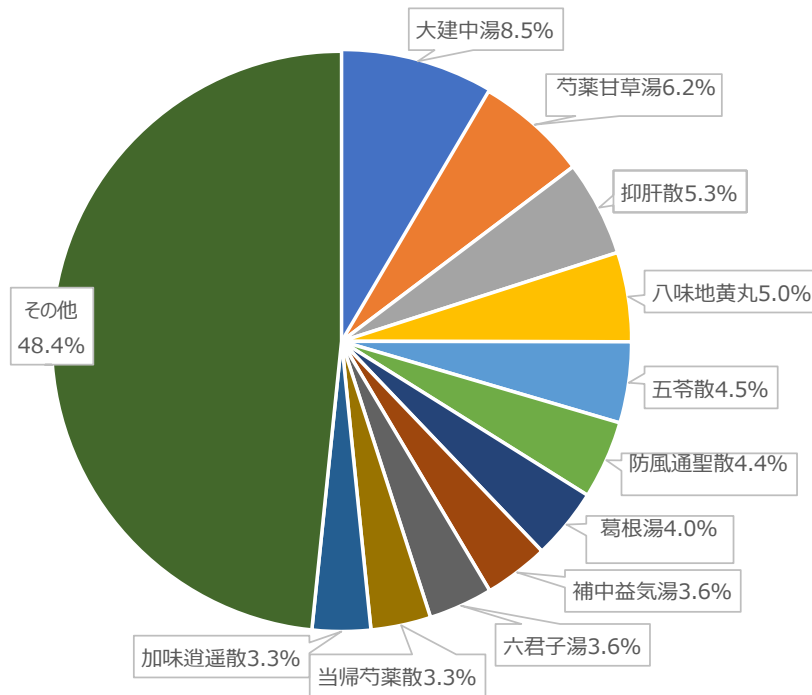
# はじめに

- 漢方薬は、日本の医療の幅広い領域で活用され、疾患の治療ならびに回復の促進・健康維持に貢献しています。
- 漢方薬は、医療用漢方製剤として現在148種類が保険収載されています。
- 漢方薬は、保険診療における漢方薬の適正使用が続くことが、国民の皆様の健康や社会活動の支援に繋がります。

## 医療用漢方製剤の現状

医療用漢方製剤は、様々な疾患の治療手段として使用されています。

医療用漢方製剤シェア

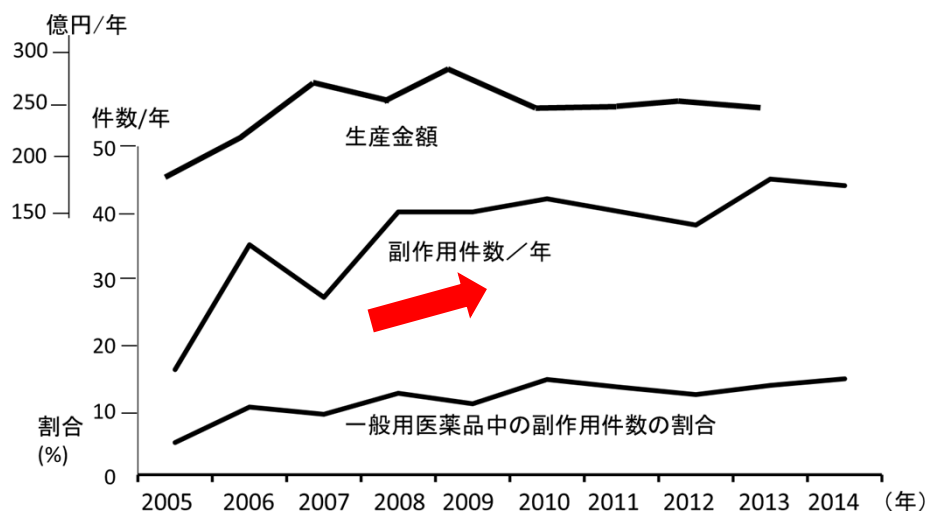


成分名	代表的な使用疾患
大建中湯	手術後の腹部症状（イレウス） 炎症性腸疾患
芍薬甘草湯	透析・肝硬変・糖尿病などで起こる筋痙攣
抑肝散	認知症BPSD（興奮症状）
八味地黄丸	過活動膀胱、前立腺肥大
五苓散	慢性硬膜下血腫、心不全、ウイルス性腸炎
防風通聖散	便秘、高血圧症、肥満症
葛根湯	感冒、新型コロナウイルス感染症、乳腺炎
補中益気湯	COPD、手術後の免疫増強、男性不妊
六君子湯	がん支持療法（食欲不振）、逆流性食道炎
当帰芍薬散	月経困難、不妊症、更年期障害
加味逍遙散	月経困難、更年期障害

# 外来診療における診察、検査の重要性

漢方薬にも副作用はあります。  
安全のため、医師管理の下で適切に漢方薬が使用されることが求められます。

一般用漢方製剤の副作用



上位3つの漢方薬の副作用(2005-2014年度)

防風通聖散	(%)	葛根湯	(%)	八味地黄丸	(%)
肝機能異常	65 (59)	薬疹・過敏症	21 (47)	肝機能異常	2 (13)
肺障害	23 (21)	肝機能異常	9 (20)	腎尿路	2 (13)
消化管	7 (6)	肺障害	2 (4)	過敏症・薬疹	2 (13)
過敏症・薬疹	4 (4)	消化管	2 (4)	肺障害	1 (7)
偽アルドステロン症	2 (2)	腎尿路	2 (4)	消化管	1 (7)
腎尿路	1 (1)	偽アルドステロン症	1 (2)	偽アルドステロン症	0 (0)
その他	8 (7)	その他	8 (18)	その他	7 (47)
全	110 (100)	全	45 (100)	全	15 (100)

## 【副作用報告】

一般用漢方製剤の副作用報告は一般用医薬品中、10%前後

医療用漢方製剤の副作用報告は2014年度において全医療医薬品のうち0.42%

➡医療用は適切な医師管理の下で使用される！

# 漢方薬が保険診療で使用できなくなると？

- 漢方薬の自由な使用拡大は、健康被害を増加させる懸念があります。
- 入院診療で漢方薬が使用できなくなり、体に負担をかけずに手術後の回復を促進する術が無くなります。
- 入院期間が長くなることで体力が低下し、経済的負担も増加します。
- がんサポートケアに漢方薬が使えなくなります。
- 小児への投薬の選択肢が狭くなります。

# 日本東洋医学会は宣言します。

今後も

- 日本の医療において、外来から入院まで幅広く活用されている  
漢方薬が保険診療で継続的に使用されるよう活動します。
- 国民の皆様の健康維持ならびに社会活動、経済活動にさらなる  
貢献ができるよう、漢方の医学教育、研究、診療のレベルアップに努めてまいります。